

# ほっかいどうの社会保障

2013年2月5日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

## 分断と領域を乗り越えて、貧困をなくす運動を！



### 全道学習・運動交流集會に80人参加

2月2日(土)、雇用・くらし・SOSネットワーク北海道主催で、「貧困をなくそう！全道学習・運動交流集會」が行われ、全道から80人が参加しました。

ますます格差と貧困が広がり、生活保護の引き下げや改悪がすすめられようとしています。こうした下で開かれた集會では、首都圏青年ユニオンの河添誠さんの講演「貧困と自己責任 一分断と領域を乗り越える社会活動を一」や指定報告などを学び、各団体の取り組みを交流しあいました。

### 労働者の深刻な実態告発「自己責任」は弱い者いじめ 河添誠さんが講演

河添氏は、冒頭、生活保護基準引き下げの動きについて、①生活保護より低い人も含む一番所得の少ない階層と比べていること、②「物価安」というが食料品などの生活必需品は安くなっていないと批判しました。

貧困状態の人は多数で、路上生活者(3万人)、生活保護利用者(214万人)、母子世帯(124万)、一人暮らし高齢者(386万人)、高齢夫婦世帯(449万)、年収200万円以下給与所得者も1045万人いると説明しました。

特に「働いても貧困状態の所得しか得られない人」＝ワーキングプア問題の解決が重要と指摘し、なぜワーキングプアになるのか、労働者の実態を告発しました。

#### 非正規労働も正規労働も劣悪

非正規労働は、問題のある派遣も含まれるが、パート・アルバイトが1192万人で全体の68%で圧倒的多数。一度失業すると、ほとんど雇用保険が支給されないため生活できない(支給率は失業者の23%、30年前は6割だった)。そのため、低賃金でも仕事に就こうとする、安定した仕事にはつけない、「半失業・半就労」の状態になってしまう。中には、失業後、健康保険に入れない「無保険」の人も多数いると紹介しました。

一方、正規職員も低賃金、長時間過密労働で、暴力も含めたパワハラを受けてもやめられない労働者も少なくない。こうした「ブラック企業」は大量採用するが、数年でほとんどが退職する。中には重症のうつなどで体

壊し社会復帰できない人や自ら命を絶つ人までいると実例を紹介。しかし、多くの労働者が、非正規労働の生活が大変なため、ブラック企業でも就職をしています。そのためブラック企業はなくなる。非正規労働と正規労働は「コインの表裏」で、関係が深いと指摘しました。

こうした状況を作り出したのは、規制緩和を進めた「構造改革」の政治があり、転換のためには、①有期雇用の制限、②失業時の所得保障の充実、③職業訓練制度の充実などが必要と訴えました。

#### 声をあげれば、変えられる

また、経済的貧困は、意欲の貧困も生みだす。「貧困は自己責任だ」と攻撃されるが、それでは何も解決しない。「自己責任」という言葉は、強い者から弱い者にむけられる「弱い者いじめ」の論理で、それは、社会的弱者の声をあげる勇気を弱めてしまう。声をあげても無駄と考え、政治的無関心も拡大すると批判しました。団体交渉の様子を写した映像も紹介し「声をあげれば変えられる」という感覚を小さくても取り戻すことの重要性も強調しました。

フツーに働いて、フツーに生活できる賃金、社会保障で生活できる政治をつくる大運動を呼びかけました。

**憲法 27条** すべて国民は、**勤労の権利を有し、義務を負う**

### 旭川から特別報告 4つの指定報告 団体などから深刻な実態や活動報告も

交流では、特別報告として、旭川 SOS ネットの遠藤元美さん(道北勤医協)から、毎月、相談事例の症例検討を行い、行政へも働きかけ、ハローワークなどと共同した相談会活動などが報告され、4人から指定報告がされました(表)。

経験交流では、労働組合から、札幌市の清掃・警備労働の劣悪な実態、タクシー労働者の最賃

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| ①「救護施設からみた貧困の実態と取り組み」   | 札幌明啓院の金子諭さん        |
| ②「こころの相談を担当する中で見えてきたこと」 | 精神障害者を支援する会の片山和恵さん |
| ③「多重債務問題の実態と取り組み」       | 札幌陽は昇る会の青野道子さん     |
| ④「『問われる労働組合の役割』～労働相談から」 | 道労連労働相談室長の吉根清三さん   |

以下の賃金の広がりや安上がりで会社に助成金が入る高齢者が増えている実態、いの健センターから、ブラック企業による労働者の健康被害などが報告されました。また、緊急一時宿泊所を行っている「みんなの広場」から活動が紹介され、アイヌ刺繍家の女性からはアイヌ民族の貧困の実態も報告されました。